誤解された生物進化論 （六月號所載熊谷氏の說を駁す）

會員　京都　池田政晴

會員熊谷繁三郎氏は本誌六月號誌上に「宇宙論はどこへ行く」との題の下に現代の宇宙論を記して生物進化論に論及し，氏の意見をも述べられた．私は天文學に關しては氏と同樣素人であるから，氏の宇宙論には全く觸れ無いが氏が聊か自信を持つと稱して論及された生物進化論及びそれの宇宙論に及ぼす影響の中に初學者を誤る點があるので，此處に私の意見を述べさして頂く，私は植物學の專攻者である．此處にゆくりなくも生物學者が二人登場して，議論を討はす事になつた．諸君先づ目を瞠られよ．

氏は「今日の宇宙論が斯くの如く茫乎たる大海を望むが如きものとなつたのは，其罪は生物進化論に有ると確信する」と前提して種々論及し，更に「併し此の進化論が近時頗る怪しいものになつて來た．世界の多數の學者に依り凡らゆる學術の方面から築き上げられたる學說であるが，今や其の牙城が覆らんとしてゐる」と述べ，最後に「メンデルの遺傳法則が確認せられ，又生物實驗の方法が進步してから，此等の事態は事實から頗る懸け離れた誤認だとの實證が夥しく擧げられて來た．斯くて進化論は今や沒落の悲戲を見せんとしてゐる」と言つて居られる．

私は以上が全く熊谷氏の誤解であると斷言する．進化論，自然淘汰說に對する認識不足と斷定する．進化論は嚴然たる事實の上に立つ學說で，今日益々確定的となり，沒落もどうもしない．進化論とは如何なるものであるか．くだいて言へば，「古人の考へた樣に，生物は神が昔別々に作つたもので今日もその時のまゝの形を保つて居ると言ふ考は誤であつて，生物は古代の比較的簡單なものから，次第に複雜な高等なものに進化したものである」と言ふ說である．之は比較形態學，比較發生學，生物地理學，分類學，古生物學，生物化學上の事實から推論した說であつて，吾人の五感を疑はぬ限り，何人によつても首肯され得るもので，架空のものでは斷じて無い．氏が誤に陷つたのは，進化論と自然淘汰說〔註〕との混同である．進化論は上記の通り生物學上の事實から，「生物は進化する」と說くのであるが此進化が如何樣な，

素因，外因，手續で行はれるかを說明せん爲に澤山の說が生れた．自然淘汰說も其一である．卽，生物は通常生存し得る數よりも多數の子を生み，そこに激しい生存競爭が起るが，生物には同一の親から生れたものの間にも多少の變異，卽彷徨變異があるので，生存競爭に當つては，其中で多少なりとも生存に有利な形質を具へたものが生き殘り，この有利な形質は遺傳し，集積せられて進化を來すと言ふ說である．此自然淘汰說は其後の實驗生物學の進步により，其前提とした彷徨變異の遺傳が否定せられたので殆んど沒落して了つたが，進化の事實は依然として事實である．

更に氏が，「進化論が果して架空の學說だと云ふことに極つたなれば，古代の生物も今日の生物も其形態に著しき變化の無かつたことになり，地球の發達史，從つて天體の發達史にも根本的に書き改めねばならぬ時期が來るのでなからうか」と進化論なる學說の改廢によつて形態の變化の有無と言ふ古生物學上の事實が變更されると說くに到つては科學者としての氏の態度を疑ひ度くなり，又生物進化の事實を認める以上，氏の說く生物進化論の宇宙論に及ぼす影響も是認する譯には行かない．

私は初學者の誤解を恐れる故に敢て氏の進化論に批評を加へた．氏の宇宙論に就ては諸君自ら再び吟味せられよ．妄言を多謝す．

【註】 生物進化論はもともと，生物非進化論に對して主張された學說で，旣記の通りの內容のものである．谷津直秀氏も岩波哲學辭典にこの意味に解說して居られる．併し其後進化論を證明する事實が夥しく見出され，生物の非進化，進化を論ずる餘地が無くなつて了つた．それで今では進化論と言へば，如何にして進化が起つたかを說明する學說，卽自然淘汰說，突然變異說等を意味する樣に轉化した．それ故とかく言葉の上の誤解を起し易いので，今日で敎科書等には「進化の事實」と「進化論」又は「進化の學說」とに分けて記述せられる樣になつた．熊谷氏が兩者を混同して後の意味の進化論卽自然淘汰說等の沒落が前の意味の進化論の沒落，卽進化の事實の否定を來すと考へられた所に根本的の誤がある．